

## 平成30年度第4回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（日高会場）

1. 日 時 平成30年9月27日（木） 14:00～16:30
2. 場 所 日高町中央公民館
3. 参加者 学校教育関係者 学校運営協議会委員 地域住民社会福祉士  
市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者等  
合計 44名

### 4. 内 容

#### ◆実践発表

「きのくにコミュニティスクール導入について」

日高川町立川原河小学校 校長 小川 吉信 氏

#### ○学校運営協議会設置推進委員会

- ・平成29年度「美山地区における学校運営協議会設置推進委員会」を発足
- ・学校運営協議会設置に向けて、14名の委員が議論
- ・「単独設置」と「合同設置」メリット・デメリット  
→具体的な活動を考えることにつながった
- ・「単独設置」決定

#### ○第1回学校運営協議会（平成30年7月）

学校運営協議会委員構成…校長・教頭・PTA会長・区長・その他3名 計7名  
(協議事項)

- ・スクールプランを用いて「基本方針」を説明
- ・「学校評価」の方法を議論
- ・今後の行事予定について議論  
→笠松小との「合同運動会」への参加者増加を図る取組
- ・決定事項  
→子供に多様な出会いと学びの機会をつくろう  
→地域に愛され、貢献できる学校にしよう  
→学校づくりのアイデアを出していこう  
→地域に積極的に声かけをしていこう  
→より多くの人に学校に来てもらおう  
→地域行事に子供も関わらせよう



#### ◆校内での研修のあり方

「パンフレット、独立行政法人教職員支援機構の校内研修シリーズ等の活用」

#### ○NITSのオンライン研修「校内研修シリーズ」の活用

- ・講義動画『「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ』視聴
    1. なぜ学校と地域との「連携・協働」が必要なのか
      - ・子供たちが幸せに安心して暮らせるまち、子供たちが「志」を果たしていける未来を創り上げていくために
    2. 「社会に開かれた教育課程」の実現とコミュニティ・スクール
      - ・子供たちに、未来の作り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現
    3. 熟議・協働・マネジメント
      - ・関係者が当事者意識をもって「熟議」を重ねること、学校と地域の人々が「協働」して活動すること、学校が組織として力を発揮するための「マネジメント」が必要
- 以上3点について、視聴後にペアで交流

## ○パンフレット等の活用

- ・コミュニティ・スクール2018（文部科学省）パンフレット  
→（P 1・2）制度や法律についての解説  
（P 3・4）熟議・協働・マネジメントについての解説  
（P 9・10）社会に開かれた教育課程についての解説



- ・きのくにコミュニティスクール（県教委）リーフレット  
→（漫画）地域住民の思いを学校運営協議会で熟議するまでの流れについて解説

## ◆熟議体験「CSの主体的な取組を推進するために」

### ○グループ（4人）での熟議

- ・各グループファシリテーターによる進行
  1. 現状について（青色の付箋）
  2. 研修①②から気づいたこと（黄色の付箋）
  3. CSを充実させるためにわたしができること（赤色の付箋）

→他グループとの情報共有

【各グループで出された意見】

<気づいたこと>

- ・「熟議をしっかりとしないといけない」
- ・「（地域と学校が）貸し借りの関係ではいけない」
- ・「人が入れ替わっても可能かどうか（を考えなければいけない）」

<できること>

- ・「熟議をして具体案の意思形成」
- ・「校内研修による周知」
- ・「地域住民の人脈づくり」



### ○熟議についての説明

- ・熟議とは、課題について学習・熟慮しながらじっくりと議論するもの
- ・1回の熟議で終わるのではなく、継続し、熟議を重ねていくことが大切
- ・「課題を出し合って、共通目標を決める」熟議
- ・「テーマをあらかじめ設定し、その課題を解決する」熟議

### 5. 参加者の声（アンケートより）

- ・実践発表で、CS導入までのプロセスを理解することができ、相当な時間やエネルギーが必要だと感じたが、熟議体験で、今ある活動を活用していけばよいということに気づけた。（小学校教職員）
- ・N I T Sのオンライン研修が大変わかりやすく、再度視聴して学び、校内研修に生かしていきたい。（中学校教職員）
- ・過去の研修を受けて、あまり具体的には理解できていなかったが、今回でかなり理解が深まった。（中学校教職員）
- ・これから導入していく学校・自治体にとっては、過去最高に参考になった。（教育委員会関係者）
- ・熟議体験は、教職員に伝える際の有意義な経験になった。（教育委員会関係者）